

基本課題5 世界に誇りうる「風格」ある愛知をつくる

- 本県は世界的なモノづくりの一大集積地として発展してきたが、社会が成熟し、量よりも質、モノの充足より心の満足を重視する時代においては、経済力だけではなく、世界から多様な人材や価値観を受け入れ、新たな文化や価値を創造・発信するような力を格段に高め、世界の中で存在感を示すことができる「風格」ある愛知をつくっていく必要がある。
- そうした中、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」を基軸としつつ、文化芸術を担う人づくりなど、地域の文化芸術の底上げを図るとともに、産業観光や武将観光、さらには環境をテーマとした観光など、本県独自の観光資源の磨き上げを行い、その魅力を発信していく。
- また、地域の知的財産とも言える大学との連携を強化しながら、世界から専門的な能力を持つ人材が集まり、活躍できる地域をつくっていく。さらには、成長著しいアジア等の活力を取り込むとともに、それらの国・地域への貢献という視点も持ちながら、経済面はもとより環境、観光、人材などの面での連携や交流を促進していく。

37 トリエンナーレ開催による文化芸術の薫り高い地域づくり

- 2010年に国際芸術祭の初回となる「あいちトリエンナーレ2010」を開催し、「都市の祝祭 Arts and Cities」をテーマに、現代美術を基軸としつつ、芸術文化センターの複合機能を生かし、舞踊、オペラなども併せて展開していく。
- その後も、トリエンナーレを3年に一度、定期的で開催することにより、愛知・名古屋の文化のシンボルとして定着させ、この地域の文化芸術活動を活発化させると同時に、愛知から現代美術を世界に向けて発信し、世界の文化芸術の発展に貢献していく。

38 文化芸術を担い、支える人づくり

- 愛知の文化力の底上げを図っていくためには、文化芸術を担い、支える人づくりを進め、文化芸術を創造したり、鑑賞したりする人の層を厚くしていくことが重要である。そのため、公立学校における文化芸術教育を検討していくほか、子どもの文化芸術体験機会の拡大・充実を図るなど、若い時期から感性や創造力を

育み、文化芸術の底辺拡大を図っていく。また、愛知芸術文化センター等を活用して、若手芸術家が活動発表するための場づくりを進めるなど、次代を拓く芸術家の育成を図るほか、文化芸術の創り手（芸術家）と受け手（住民等）をつなぐ役割を担うアートマネジメント^{*} 人材の育成に取り組んでいく。

^{*}アートマネジメント：公演等の企画・構成・制作、マーケティング、資金獲得、営業・渉外・広報など、文化の創り手（芸術家）と受け手（住民等）をつなぐ役割を担うこと

39 大学との連携による専門的な能力を持つ人材が活躍できる地域づくり

(1) 専門的な知識や技術を持つ研究者が活躍できる場づくり

- 大学は地域の重要な知的財産であり、将来を担う人材の供給源でもある。その知的財産の質を高めることで、全国・世界から優秀な人材を呼び込み、さらに先端の研究成果が生み出される好循環を地域としても支援していく必要がある。県として、大学における国等の研究資金の獲得に協力するなど、特色ある研究や実践を数多く展開できるような支援を行うとともに、技術経営や知的財産を担う人材、科学技術コーディネーターなど研究開発の成果を実際のイノベーションにつなげていく上で必要な人材の育成を図っていく。

(2) 海外からの専門的な能力を持つ人材の受入れ促進

- 世界の優れた人材が集い、活躍できる地域をめざし、留学生がこの地域に定着できるよう、インターンシップなどの就職支援に取り組んでいくとともに、高度な研究開発など将来この地域で活躍できる海外の専門的な能力を持つ人材を戦略的に受け入れていくための支援についても検討していく。

40 アジア等との経済連携交流の推進

- 世界同時不況とも言われる経済状況にあって、中国をはじめアジア等の新興国は今後の世界経済の成長エンジンとして期待されており、アジアにおける生産ネットワークのさらなる拡大・強化や市場開拓が重要である。また、アジアの国の一員として、そうした国・地域の発展に貢献していくことも重要であり、交流や連携の強化により、ともに発展していけるような関係を築いていく必要がある。そうした中、経済交流に関する合意を締結したベトナム政府、中国江蘇省政府とは、今後、企業の投資や環境ビジネス、観光、人材など、経済交流の一層の拡大・深化を図っていく。あわせて、経済情勢や県内企業の動向などを踏まえつつ、新たな経済交流の相手国・地域についても検討を進めていく。

41 魅力ある観光資源を活かした広域観光圏づくり

(1) 中部圏の多様な魅力を活かした広域観光の推進

- 中部地域は自然、歴史、産業の蓄積や文化財など日本有数の多様な観光資源があることから、複数の観光地間で連携・ネットワーク化し、中部という広域エリアが観光の目的となるような「面（エリア）」での魅力づくりを進めていく必要がある。中部9県による中部広域観光推進協議会の取組等により、テーマ性やストーリー性を持った魅力ある広域観光を推進し、隣接県等と一体となってこの地域の観光の魅力を発信していく。あわせて、中部の観光ゲートウェイとしての本県の役割を強化し、多言語案内等、外国人旅行者が観光しやすい環境を整えていく。

(2) 本県独自の観光資源の磨き上げ

- 他の観光エリアにはない特色あるテーマや資源を磨き上げ、地域イメージを確立していくため、本県が先行している「産業観光」や「武将観光」の取組をさらに強化していく。また、「環境」をテーマにした観光など、愛知らしさを観光資源とした地域ブランドの創出を検討し、地域独自の食文化や町並み等の魅力向上を目指した施策を推進していく。また、県立学校における地域の観光資源を活かした教育活動の実施や、観光ボランティアガイドへの支援など、観光振興を担う幅広い人材を育成し、地域の「おもてなし」の心を醸成していく。

42 国際イベント・コンベンションの誘致・開催

- この地域の国際都市としての力を高め、さらに発展させていくためには、万博、空港の成果やこれまで蓄積してきた世界との交流の経験を最大限生かし、国際的知名度を高めるコンベンションや大きな集客力のあるイベントを継続的に開催していくことが重要である。そのため、2010年に開催する生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）やあいちトリエンナーレはもとより、「人と自然の共生国際フォーラム」や、2011年の「日・韓・中ジュニア交流競技会」など、国際イベント・コンベンションの開催や誘致を進めていく。